

山口県立総合医療センター

# 産婦人科 専門研修プログラム

つむぐ、  
つながら、  
つよくなる。

Obstetrics and  
Gynecology

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

# 未来は現在からつくられる、想いを「つむぐ、つながる、つよくなる」

## INTRO はじめに

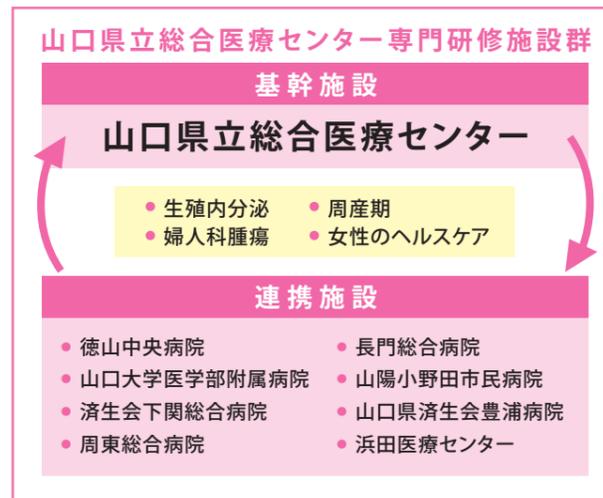
産婦人科専門医として要求される4領域(生殖内分泌、周産期、婦人科腫瘍、ならびに女性のヘルスケア)に関する基本的知識・技能を有した医師(専門医)を育成するためのカリキュラムを構築した。専門医資格の認定を申請するために必要な「経験すべき症例数」「症例記録およびレポート」「学術活動」ができるように配慮している。

## ABOUT 当院産婦人科の紹介

当院は山口県防府市にあり、山口県東部をカバーする504床を有する総合病院である。産婦人科のホームページにその詳細を見ることが出来るが、当院は山口県内で最も多くの分娩を取り扱っている総合周産期母子医療センターを有し、臨床遺伝専門医・指導医ならびにカウンセラーも常勤しており、多くの先天異常や胎児異常を小児科・小児外科と情報共有しながら受け入れている。不妊生殖医療も自慢の分野で、高度生殖医療(体外受精)はもとより、若年者に対するがん治療前の妊孕性温存療法でも県内唯一の卵巣組織凍結保存の施設認可を受けている。婦人科がん治療に関しては、大学以外では唯一の小線源放射線治療(RALS)装置を有する病院であり、県内の多施設から紹介患者を受け入れている。経験豊富な7名の常勤医が丁寧に直接指導している。また、学問的な指導も積極的に行っており、学会発表や論文発表の指導も行っている。詳細はホームページを参照。

## PROGRAM 当院のプログラム

当院を中心に連携8施設で専門研修施設群を構成している。基本的には当基幹施設と症例数が豊富な連携施設である3施設(済生会下関総合病院、徳山中央病院、山口大学医学部附属病院)から2施設を選択し、3年間ローテートすることで生殖医療、婦人科腫瘍、周産期、女性ヘルスケアの4領域を万遍なくかつ十分に研修する事が(地域医療研修も含めて)可能となる。希望があればそれ以外の連携施設での研修も可能である。この3年間の研修で専攻医に必要な臨床経験件数は十分にクリアできる。専攻医は3年間で修了要件を満たし、ほとんどは専門医たる技能を修得したと認定されると見込まれるが、この間に病氣療養や産休などにより長期休職を余儀なくされる場合、育児のために労働時間が制限される場合には「復帰支援コース」を設けており、個人の状況に合わせて研修内容を作成できる。さらに専門医取得後にはサブスペシャリティ研修などの将来ビジョンも示されている。



## STAFF スタッフ

### ◎プログラム統括責任者

統括副院長  
婦人科 診療部長  
**中村 康彦**  
Yasuhiko Nakamura  
生殖・内分泌、がん治療

### ◎副プログラム統括責任者

総合周産期母子医療センター長  
遺伝診療科 診療部長  
**佐世 正勝**  
Masakatsu Sase  
周産期医療、超音波、臨床遺伝

### ◎指導医

生殖医療科 診療部長  
**浅田 裕美**  
生殖・内分泌、女性ヘルスケア、産婦人科全般  
産科 診療部長  
**三輪 一知郎**  
内視鏡手術、周産期医療、超音波、婦人科医療

**讚井 裕美**  
内視鏡手術、臨床遺伝、婦人科医療  
**大谷 恵子**  
生殖・内分泌、がん治療、産婦人科全般  
**西本 裕喜**  
産婦人科全般  
上記7名すべて日本産科婦人科学会専門医  
上記の下に専攻医2名がレジデントとして研修中(2022年現在)

### ◎募集定員

4名

### ◎お問合せ先

**山口県立総合医療センター**  
〒747-8511  
山口県防府市大崎10077番地  
TEL 0835-22-4411

生殖医療科 診療部長  
**浅田 裕美**



## 山口県立総合医療センター産婦人科専門研修プログラムの具体例

### ① 基幹施設→連携施設→連携施設研修コース

(一例)

基幹施設 1年目	連携施設 2年目	連携施設 3年目
山口県立総合医療センター	山口大学医学部附属病院	徳山中央病院
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性のヘルスケア</li> <li>● 周産期</li> <li>● 婦人科腫瘍</li> <li>● 生殖内分泌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性のヘルスケア</li> <li>● 周産期</li> <li>● 婦人科腫瘍</li> <li>● 生殖内分泌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性のヘルスケア</li> <li>● 周産期</li> <li>● 婦人科腫瘍</li> <li>● 生殖内分泌</li> </ul>
<p><b>産婦人科基礎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理</li> <li>● ハイリスク妊娠・分娩</li> <li>● 婦人科良性・悪性腫瘍の診断・治療</li> <li>● 腹腔鏡下手術助手・術者</li> <li>● 一般生殖医療</li> <li>● 生殖補助技術の適応と実践</li> <li>● 外来診療(女性ヘルニア管理を含む)</li> </ul>	<p><b>産婦人科応用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理</li> <li>● ハイリスク妊娠・分娩</li> <li>● 婦人科良性・悪性腫瘍の診断・治療</li> <li>● 腹腔鏡下手術助手・術者</li> <li>● 生殖補助技術の経験</li> <li>● 外来診療(女性ヘルニア管理を含む)</li> </ul>	<p><b>産婦人科応用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理</li> <li>● ハイリスク妊娠・分娩</li> <li>● 婦人科良性・悪性腫瘍の診断・治療</li> <li>● 一般生殖医療</li> <li>● 腹腔鏡下手術助手・術者</li> <li>● 生殖補助技術の経験</li> <li>● 外来診療(女性ヘルニア管理を含む)</li> </ul>

研修修了要件	山口県立総合医療センター	山口大学医学部附属病院	徳山中央病院	経験予定数(必要修了要件)
経膈分娩(立ち会い医)	100	100	100	300(100)
帝王切開執刀	50	30	30	110(30)
帝王切開助手	20	20	20	60(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術執刀医・助手	15	10	15	40(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀(稽留流産を含む)	10	10	10	30(10)
膣式手術(子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む)執刀	10	5	10	25(10)
子宮付属器摘出・卵巣嚢腫摘出術執刀(開腹、腹腔鏡)	10	5	10	25(10)
単純子宮全摘出術執刀	5	5	5	15(10)
浸潤癌(子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌)手術助手	10	10	20	40(5)
腹腔鏡下手術執刀・助手	10	20	10	40(15)
不妊症の原因・治療に携わった経験	5	5	5	15(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	50	20	30	100(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	5	5	5	15(5)
CC・LEP初回処方時の有害事象説明ないし助手経験	2	5	3	10(5)

## 院長ごあいさつ

当院の使命は高度急性期病院としての機能に加え、基幹災害拠点病院、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院および地域がん診療連携拠点病院など、小児から高齢者に至る幅広い年齢層の患者さんの命を救うべき病院として機能することです。

少子高齢化社会に加え、人生100年の時代に突入してきました。100年の時間をどのようにデザインしていくか、「健康長寿」を目指したその医療提供体制の在り方が問われています。良質な医療を提供するためには、人材育成の観点から医療人がより働きやすい、活力が生まれる職場環境の見直し・整備が今の時代には不可欠です。ITを利活用し、時代の潮流に沿った在宅医療の推進に向けた病病連携や病診連携も積極的に推進していき

ます。山口県民の皆さまが安心できる医療提供体制作りにも多角的視点から取り組んできたいと思っています。

今後とも、当院の基本理念である「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する」ことに向かって、県民の中核医療機関として恥じないよう、職員一同、一致協力して精進していく所存でありますので、県民の皆さまのより一層のご理解とご支援の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

地方独立行政法人山口県立病院機構  
山口県立総合医療センター

院長 武藤 正彦



## 基本理念

県民の健康と生命を守るために  
満足度の高い医療を提供する。

## 目標

- ◎患者本位の医療
- ◎親切な医療
- ◎良質な医療
- ◎信頼される医療
- ◎地域に開かれた医療を提供し、県民の健康に資する。

## 基本方針

医学・医術の進歩、疾病構造の変化、医療領域の拡大、医療の情報化に対応できる基幹病院として、県内の医療機関との機能分担と連携を図るとともに、県民の健康と生命を守るために良質で満足度の高い医療を効率的に提供し、県民の福祉の増進に寄与する。

- 1 救急・周産期・がん・へき地医療など高度専門・特殊医療等の推進
- 2 災害時医療及び感染症対策への積極的な取組
- 3 本県の医療水準維持・向上のための支援機能の充実
- 4 医療の安全性の確保と患者サービスの充実
- 5 経営健全化のための一層の取組

## 診療科目

- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 腎臓内科
- 糖尿病・内分泌内科
- 血液内科
- 小児科
- 小児科(新生児)
- 外科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 乳腺外科
- 整形外科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 頭頸部外科
- 心臓血管外科
- 小児外科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 婦人科(生殖医療)
- 遺伝診療科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 精神科
- 救急科
- 麻酔科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 病理診断科

## 病床数

504床(一般病床490床・感染症病床14床)

